

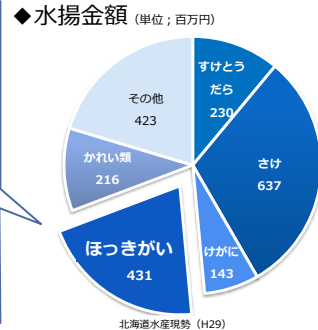
浜の活力再生プランの取組み



苫小牧市地域水産業再生委員会

苫小牧漁協の概要

- ◆組合員数123名
- ◆ほっきがい桁網漁業、すけとうだら刺し網さけ定置、かれい刺し網などの漁業に着業



苫小牧市の概要



- ◆北海道一の取扱貨物量を誇り国際拠点港湾である苫小牧港を有する**工業都市**
- ◆苫小牧港はもちろん、新千歳空港にも近接。札幌からも近く道内の**物流の中心地**



苫小牧漁協の概要

- ◆工業地帯であるゆえ、環境対策にも取組都市型漁協として様々な役割を担う

■企業排水や河川工事への対応

- ・苫小牧港では企業誘致を推進多様な企業が参入・立地
- ・進出企業等からの排水も多い
- ・漁場への悪影響を未然に防ぐため、各企業の排水や河川水を採水し、水質検査を実施

■CCS事業（二酸化炭素地下貯留技術実証実験）調査への協力

- ・経済産業省による二酸化炭素削減事業
- ・苫小牧沖で二酸化炭素の分離・回収・貯留の実証試験を実施
- ・二酸化炭素の漏出が無い等、適切な管理が行われているか漁業者自らが海洋環境調査に参加・協力

Carbon dioxide Capture Storage
回収・貯留

運搬

貯留層
CO2を貯留層に注入

浜の活力再生プランの取組対象魚種

ホッキガイ (ウバガイ)



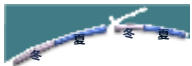
マツカワ (タカノハ)



浜プラン取組以前の課題①

- ・ 漁業者約8割が着業する基幹産業で、**重要な地域資源**
- ・ 過去には資源維持が困難になるほど低位な資源状態に…
- ・ この経験を活かし、資源管理型漁業を目指し古くから各種の資源管理に取り組む

漁場の輪番制



操業漁場を季節毎に分け操業

採捕するサイズの制限

公的規制
殻長7.5cm以上採捕
(北海道海面漁業調整規則)



苫小牧漁協独自規制
殻長9.0cm以上採捕

漁獲ノルマの設定

一般的には漁獲圧
10%以上で乱獲
↓
苫小牧漁協では漁獲圧を
3%~5%程度とし
資源量調査に基づき
資源量や漁獲動向を勘案し
決定

数々の資源管理に取り組んでいたものの

推定資源量は減少傾向…

ホッキガイの取組

資源の確保のために

ホッキガイの外敵 ハスノハカシパン



- ・ 浅海域に生息するウニの一種
- ・ 固い殻に覆われていて食べられないものの、菓子パンに形が似ているためこの名前に
- ・ 食性や生息場所がホッキガイと同じ。**ホッキガイ生育の妨げに**

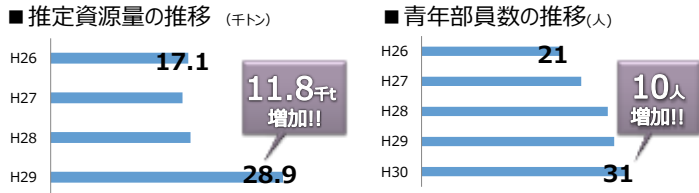
漁業者が主体となって駆除や漁場耕耘を実施！！

◆ 漁業者が積極的に協力して各種調査を実施



- ・資源量調査 (夏季・冬季)
翌年度漁獲ノルマ設定
- ・産卵調査
資源発生の根本的原因究明
- ・成長状況調査
成長状況及び成長要因調査
- ・稚貝移植放流
過密生育漁場の分散
- ・会員間引き事業
高齢員の駆除及び漁場耕耘

推定資源量の大幅増加 & 魅力ある漁業として若年層の漁業就業者増加!



道外でのPR活動の実施

◆ 漁協職員や漁協女性部が積極的に道外PR活動を実施



輸入ホッキ貝とは違い、
やわらかいののに身が厚く甘みがある と好評!

ホッキガイ喫食文化の無かった地域でのPRに尽力したことで
関西圏での「苫小牧産ホッキガイ」の知名度向上に

浜プラン取組以前の課題②

ホッキガイの道外出荷はこれまでも実施してきたが…

- ◆ 漁協職員が出荷対応可能な量に限り、**小ロットの出荷**にとどまる…
- ◆ ホッキガイは道内ほぼ全域で漁獲される貝。漁獲量が増加する時期は**単価が低迷**…

発送先毎のサイズ調整、砂出し、梱包方法等のニーズに合った出荷作業を
漁業者自らが実施!



道外の大口出荷への対応が可能に

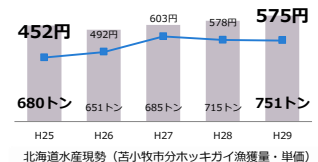
道外でのPR活動の実施②

- ◆ 関西圏の大手回転寿司チェーン店でホッキガイフェアを開催
- ◆ H27年の開催以降も定期的に開催
- ◆ 単価が低迷する時期の下支えに



漁獲量が増えても単価UP!!

取組前のH25年と比較し
漁獲量が**約70トン増加**したものの
単価も**125円/kg増加!!**



地域の水産資源として

- ◆ 苫小牧市の貝としての制定、プライドフィッシュ認定、マリンエコラベルジャパン認証取得など、地域の水産資源としてだけでなく、海外市場出荷を意識した衛生管理の実施にも取り組んでいます！



マツカワカレイとは

- ◆ その味はヒラメを凌ぐとも言われる白身の高級魚
- ◆ 昭和40年代までは北海道各地で多く漁獲されていたものの絶滅したと言われる程資源量が減少し「幻の魚」に



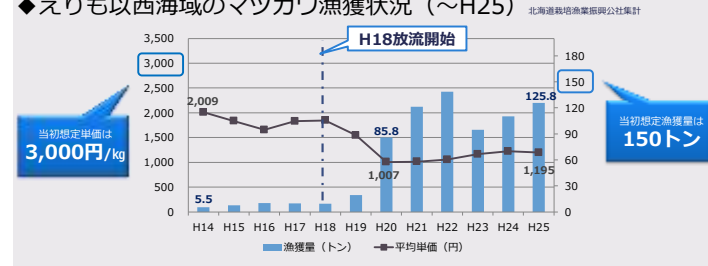
- ◆ マツカワ資源回復のため…
えりも以西栽培漁業振興推進協議会は、北海道栽培漁業振興公社へマツカワ種苗の生産を委託
100万尾の種苗放流を開始

マツカワの取組

浜プラン取組以前の課題

- ◆ 放流の成果で漁獲は増加
H21年以降**毎年100トン前後**の水揚げに！
- ◆ いっぽう、魚価は計画当初の想定単価3,000円/kgに対し、漁獲量増加後は**1,000円/kg程度で推移**…

- ◆ えりも以西海域のマツカワ漁獲状況（～H25）



浜プラン取組以前の課題

◆ マツカワ種苗生産の内訳…



種苗生産経費
施設運営費

- 漁業者の漁獲負担金
- 協議会構成団体の負担金
- 栽培公社の基金運用益

単価の低迷により十分な負担金が確保できず、所要経費は補助金に依存しているのが実情…

プロジェクトチームとしての価格対策の実施

◆ 広域連携によるPRイベント実施

「幻」だったゆえの
知名度不足…

マツカワを飲食店等に無償提供し
特別価格で提供するイベントを
協議会地域・大消費地で開催

これまでは協議会内各地で
行っていたPRやイベント



同時期に連携して実施!!



スケールメリットを活かした広告活動の実施により
注目度の高いイベントに

プロジェクトチームとしての価格対策の開始

◆ 栽培漁業の自立運営魚価向上の取組のため、えりも以西栽培漁業振興推進協議会は下部組織として価格対策に特化した「マツカワ魚価対策プロジェクトチーム」をH26に立ち上げ



えりも町～函館市までの
15漁協・関係行政・系統の若手職員や現場担当で構成
苫小牧漁協はチーム発足時から
チームのリーダーとして推薦を受け活動

チームとして活動する上での課題…

活動単位が広域すぎる!!

- ・ 構成団体が多く、地域間の漁獲状況、漁獲量の差など課題共有がなされていない
- ・ 魚価向上のための取組はこれまでも各地で行っていたものの、大きな成果に繋がらず地域単位の取組に留まっている

広域だからこそできる、
大規模な連携による『点から線』の取組が必要では？

イベントの実施経過

◆ プロジェクトチーム内で協議検討し、毎年課題を踏まえたうえでイベント実施のターゲットを絞り、チーム内で各々役割を担い開催。

年次	実施内容	参加施設数	提供食数
H27	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高単価帯の消費を目指し高級志向の宿泊施設を対象 ・ マツカワの多くは札幌市場に流通し、流通量が多い時期に価格が下ががる傾向から、価格向上を目指し札幌圏でのPRを実施。 ・ 一方で、産地での知名度の低さや販路開拓の少なから、産地でのPRも必要であるとの意見から、各地協議会内でも合わせて実施。 	9	601
H28	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「まず食べてもらう」を目標に飲食店・宿泊施設に実施拡大 ・ 1年目の消費拡大イベント「じゃらん」譲渡アンケートにより、販売量・販売経路の両面が予想以上に伸び、 ・ より多くの人に知ってもらい、食べてもらうため、実施施設対象を拡大しより気軽に食べられるイベントとした。 	15	1,043
H29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大消費地回転寿司店と各地域施設に実施拡大 ・ 前年度の実施結果から、札幌圏での関心を盛り上げ多く札幌市内の回転寿司店での提供をメインに、各地でも実施。 ・ 回転寿司店の提供は各種メディアに大きく取り上げられ、大きく食数が増えた。 	17	5,573
H30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道内各地の回転寿司店と各地施設、民間参加施設に実施拡大 ・ 引き続き札幌圏での関心を盛り上げたため施設数を増やし実施。 ・ 各地域市販の回転寿司店にも対象を拡大するとともに、各地でも実施。 	28	11,752

参加施設、提供食数ともに毎年増加!!

イベントの実施経過

◆掲載広告



◆TVでの特集など



苫小牧漁協独自の取組～商圈の拡大

◆マツカワの特色・苫小牧漁協の強みを活かした試み

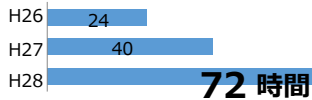
マツカワの魚体活力の強さ
 判別で漁獲後も生存する!!
生食が特に美味
 ヒラメと比較し約2倍の値にたえ!
近郊に新千歳空港が立地
 漁協から30分!
道外市場の高単価での取扱
 北のマツカワ、南のホシカレイと呼び声!

長時間輸送の試験研究を実施

(苫小牧漁協・苫小牧青専・(一社)寒地港湾研究技術センター・中央大学)



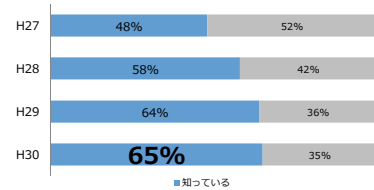
◆活輸送生存時間の推移



3日間の輸送が可能に!!

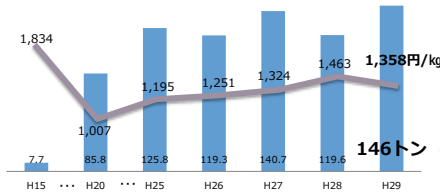
プロジェクトチームとしての取組の結果…

◆「マツカワ」認知度の推移 北海道じゃらん読者アンケート



H27年から17%増加!!

◆漁獲量・単価の推移 (H15・H20・H25～H29) 北海道栽培漁業振興公社集計



H25年から163円/kg向上!!

長時間輸送技術の活用

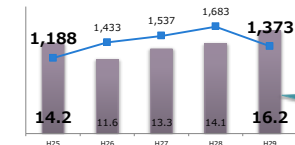
◆空輸で道外産地市場へ活状態で輸送が可能に (築地、大阪、名古屋)



◆輸送技術確立により、長時間輸送可能になったので…

空輸+陸送の併用による輸送が可能に

遠隔地へも低コストで輸送可能に!
 送料分が魚価に反映、高単価で取扱われる!

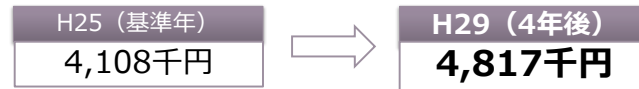


H25→H29で漁獲量は2.0トン増加したものの単価も185円/kg向上!

漁獲量・単価の推移 (マツカワ・苫小牧漁協) 北海道栽培漁業振興公社集計

浜プランの取組による漁業総所得の向上

これらの魚価向上や漁業経費削減の取組による
組合員一人あたりの平均漁業総所得



差引 709千円
基準年比117%

次期プラン策定にあたっての 今後の取組

今後の取り組みについて

苫小牧港では国土交通省輸出促進計画に基づき
屋根付き岸壁の整備が進められている
(港湾、公共で日本初)



これまでの取り組みに加え、これらを活用した輸出に
向けて取り組みを検討しています

最後に・・・